

事業名：チャイルドシート購入助成事業



Q1 この事業は、誰のために、何をしていますか？

6歳未満の乳幼児を育てる市民に対し、チャイルドシートの購入費用の一部を助成する事業です。
子育て世代への経済負担軽減と、子どもの命を守る交通安全への寄与を目的としています。



Q2 この事業に、私たちの税金がどのように使われていますか？

チャイルドシートの購入費用の一部補助（5,000円/件）に使われています。



Q3 この事業が行われることによるメリットは？

着用が義務付けられているチャイルドシート購入に対する助成により、公平な経済的軽減が図られます。また、チャイルドシート普及及び適正な着用の啓発にも寄与しています。



Q4 この事業はいつから始まり、また、見直しなどを行いましたか？

平成17年度から行っています。
平成20年10月に対象児童が「6歳未満の児童を2人以上養育している保護者（2人目以降の児童）」から「6歳未満の児童を養育している保護者（1人目から）」に拡充しました。
また、令和4年度からは電子申請での申請受付も行っています。



事業シート（概要説明書）

予算事業名	チャイルドシート購入助成事業			事業開始年度	2005年度									
上位施策事業名	4-1-2 子ども・子育て支援の充実			担当局・部名	こども部									
根拠法令等	三原市チャイルドシート購入費助成要綱			担当課・係名	子育て支援課									
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務			作成責任者	谷本									
実施の背景	使用が義務化されている、チャイルドシート購入の費用の一部を助成することにより、保護者の経済的負担軽減を図るとともに、交通安全対策(チャイルドシートの普及)に寄与する。													
目的 (何のために)	乳幼児の健全育成の一環として、チャイルドシート購入の費用の一部を助成することにより、保護者の経済的負担の軽減及び交通安全対策に寄与することを目的とする。													
事業概要	対象 (誰・何を対象に)	チャイルドシート購入時から支給申請時まで引き続き三原市に住所を有する者で、三原市に住所を有する6歳未満の児童を監護し、生計を同じくする父または母等。児童一人につき一回まで。 チャイルドシートとは、道路交通法（昭和35年法律第105号）第71条の3第3項に規定する幼児用補助装置を言う。			対象者数（全住民に対する割合）			2,810 人 (3 %)						
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施（直営）												
		<input type="checkbox"/> 業務委託 又は <input type="checkbox"/> 指定管理（委託先又は指定管理者：）												
		<input type="checkbox"/> 補助金〔直接・間接〕（補助先： 実施主体：）												
	<input type="checkbox"/> 貸付（貸付先：） <input type="checkbox"/> その他（）													
事業内容 (手段、手法など)	事業内容（箇条書き）		事業費		活動指標									
	チャイルドシート購入費補助 (指定口座に振込)		1,011	千円	助成対象者数									
関連事業 (同一目的事業等)														
コスト	2024 年度（予算）		2023 年度（決算見込）		2022 年度（決算）		2021 年度（決算）							
	事業費合計		1,206	千円	1,011	千円	1,171	千円	1,276	千円				
	事業費内訳 (2023年度分)		チャイルドシート購入費助成額 1,010,948円											
	人件費	担当正職員	0.18	人	1,080	千円	0.18	人	1,080	千円	0.18	人	1,080	千円
		臨時職員等		人		千円		人		千円		人		千円
人件費合計		0.18	人	1,080	千円	0.18	人	1,080	千円	0.18	人	1,080	千円	
総事業費		2,286	千円	2,091	千円	2,251	千円	2,356	千円					
財源内訳	国県補助金			千円		千円		千円		千円				
	国県補助金の内容													
	地方債			千円		千円		千円		千円				
	その他の財源 (使用料、手数料など)			千円		千円		千円		千円				
	その他の財源の内容													
一般財源		2,286	千円	2,091	千円	2,251	千円	2,356	千円					
財源合計		2,286	千円	2,091	千円	2,251	千円	2,356	千円					

事業シート（概要説明書）

予算事業名		チャイルドシート購入助成事業			事業開始年度	2005年度	
事業実績	活動実績	【活動指標名】（実績値/目標値）		単位	2023 年度	2022 年度	2021 年度
		申請件数（申請件数/新生児の6割）初年度		件	109/280	147/280	143/331
		対象者全体の申請件数 （累計申請件数/申請対象者人口）		件	1,287/2,810	1,512/2,991	1,673/3,186
	単位当たりコスト	総事業費	/	申請件数	千円	11	10
事業成果	成果目標 （指標設定理由等）	チャイルドシートは道路交通法により着用が義務付けられており、必ず購入が必要であるため、購入費の一部を補助し、経済的負担の軽減を図る。					
	成果 （目標達成状況）	【成果指標名】（実績値/目標値）		単位	2023 年度	2022 年度	2021 年度
		申請件数（申請件数/新生児の6割）初年度		件	109/280	147/280	143/331
		対象者全体の申請件数 （累計申請件数/申請対象者人口）		件	1,287/2,810	1,512/2,991	1,673/3,186
事業の自己評価 （今後の事業の方向性、課題等）	<p>【自己評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度に行った「（仮称）三原市こども計画」策定に向けたアンケート調査における「市が重点的に取り組む必要が高いと思う施策」の回答結果は、「子育てに伴う経済支援の充実」「小児医療の充実」に次いで2番目に高い割合を示していることから、「子育て世帯への経済支援」は求められている必要な施策と考える。 様々な経済的支援が考えられる中で、チャイルドシートは、道路交通法により着用が義務付けられているため、シートを購入した場合の費用に対して助成を行うことは、子育て世帯の経済的負担の軽減に寄与していると考えます。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> チャイルドシートは商品によって購入金額に大きな差があるため、現在の5,000円の助成金額が適切な金額かどうか。 チャイルドシート着用率が、広島県は71%であり、全国的に見て34位と依然低く、引き続き事業の継続が必要ではないか。 近年、自転車関連事故の全事故に占める構成比は増加傾向にある。交通安全対策の観点から、助成対象に自転車用チャイルドシートなどを加えることも必要ではないか。 <p>【今後の事業の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 着用が義務化されているチャイルドシートの購入費助成は、費用負担した子育て世帯に対し、広く公平な経済的支援となっており、継続して実施する。 経済支援の充実や交通安全対策の観点から、助成金額の増額や自転車用チャイルドシートも助成対象とするなど、制度の拡充を検討する。 						
比較参考値 （他自治体での類似事業の例など）	<p>○庄原市</p> <p>保護者の経済的負担軽減や交通安全対策として、チャイルドシート（ジュニアシートも含む）を購入した保護者に助成金を交付。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「乳幼児」とは、当該助成金の交付申請時において6歳未満の者。 「保護者」とは、本市に住所を有する乳幼児と生計を同じくする者。 助成は同一の乳幼児につき1回限りとします。 助成金額はチャイルドシート購入額の3分の1の額（100円未満の額は切り捨てる）ただし、1件当たりの限度額は、5,000円。 						
特記事項							

「（仮称）三原市子ども計画」策定に向けたアンケート調査結果

1 調査目的

「（仮称）三原市子ども計画」（計画期間：R7年度～R11年度）の策定に向けて、子どもと子育て世帯の状況や必要なニーズ等を把握するために実施

2 調査概要

【調査期間】 令和5年12月6日（水）～ 12月22日（金）

【調査対象・方法・回収率】

調査対象	配付数	回収数	回収率	調査方法	回答案内方法	(前回)配付数	(前回)回答数	(前回)回収率
未就学児 保護者	2,407人	634人	26.3%	WEB調査	・はがきを郵送	2,000人	877人	43.9%
小学生 保護者	4,301人	1,043人	24.3%		・すぐーで配信(公立) ・学校経由で依頼文 書を配付(国立・県立)	2,000人	816人	40.8%

※前回調査：平成30年11月～12月(5年前)

市が重点的に取り組む必要が高いと思う施策

「小児医療の充実」・「子育てに伴う経済的支援の充実」・「安心して妊娠・出産ができる医療体制の整備」・「保育サービスの充実」と回答した人が多い

回答項目	未就学児保護者 (n=634)	小学生保護者 (n=1,043)
産後支援の充実(産後ケア・赤ちゃん訪問事業など)	(第5位) 29.0%	(第6位) 19.4%
小児救急医療などの小児医療の充実	(第1位) 59.0%	(第1位) 57.0%
安心して妊娠・出産ができる医療体制の整備	(第3位) 50.3%	(第3位) 38.2%
保育サービスの充実 (一時保育、延長保育、休日保育など)	(第4位) 36.6%	(第4位) 32.7%
子育てに伴う経済的支援の充実	(第2位) 58.7%	(第2位) 51.0%
多子世帯に対する経済的な支援	(第6位) 23.7%	(第7位) 18.9%
子どもや子ども連れの親が安全・安心に通行できる道路交通環境の整備	(第10位) 12.5%	(第10位) 12.9%
家庭における教育の支援など家庭や地域における教育力の向上	(第15位) 6.5%	(第11位) 9.4%
子どもの学び・体験機会の充実	(第9位) 16.9%	(第9位) 15.9%
放課後児童クラブ、放課後子ども教室の充実 (枠の拡大や時間延長など)	(第7位) 22.2%	(第5位) 21.1%
仕事の生活のバランスが取れた多様な働き方の実現、働き方の見直しなど仕事と子育ての両立の推進	(第8位) 19.7%	(第8位) 16.2%

※各世代の上位10施策を抜粋

チャイルドシート使用状況全国調査(2023)

警察庁/日本自動車連盟(JAF)

■調査の概要

1 調査目的

道路交通法におけるチャイルドシート使用義務の対象である6歳未満の子どもについて、チャイルドシートの使用率及び取付け・着座状況を調査、公表することで一層の使用率向上を図るとともに、チャイルドシートの適正な使用を啓発することを目的とする。

2 調査期間

2023年6月3日(土)～7月17日(月・祝)の間

※調査データに不備があったため、10月に一部再調査を実施

3 調査の種類

(1)使用状況調査

- ① 調査方法:聞き取りによる確認
- ② 調査対象:自動車に乗車している6歳未満の子ども
- ③ 調査箇所:全国98箇所(調査対象数:13,119人/車両台数:10,392台)

(2)取付け状況調査

- ① 調査方法:取扱説明書に準拠した取付け状況の確認
- ② 調査対象:自動車に取付けられたチャイルドシート(乳児用・幼児用に限る)
- ③ 調査箇所:全国8地域(北海道、宮城県、東京都、愛知県、大阪府、広島県、香川県、福岡県)計16箇所(調査対象数:431シート)

(3)着座状況調査

- ① 調査方法:取扱説明書に準拠した着座状況の確認
- ② 調査対象:自動車内でチャイルドシートを使用している6歳未満の子ども
- ③ 調査箇所:全国8地域(北海道、宮城県、東京都、愛知県、大阪府、広島県、香川県、福岡県)計16箇所(調査対象数:641人)

※上記(2)(3)の調査車両台数は554台である。

●用語について

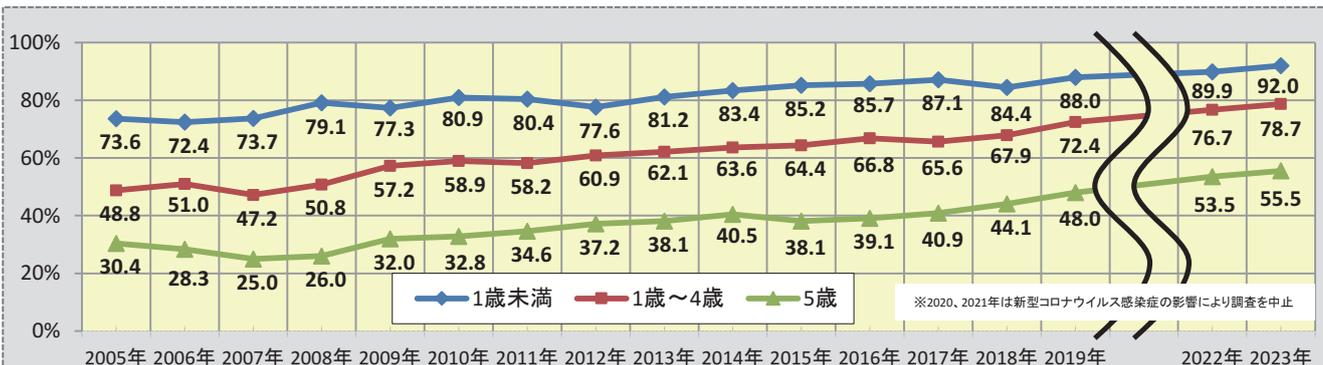
本調査では、対象となる子どもがチャイルドシートを使用しているかの調査を「使用状況調査」、チャイルドシートが正しく車両に取付けられているかの調査を「取付け状況調査」、併せて子どもを正しくチャイルドシートに座らせているかの調査を「着座状況調査」と呼ぶこととする。

本調査では、乳児用シート、幼児用シート、学童用シートを総称してチャイルドシートという。

■使用状況調査結果(使用率の経年推移:6歳未満全体)



■使用状況調査結果(使用率の経年推移:年齢層別)



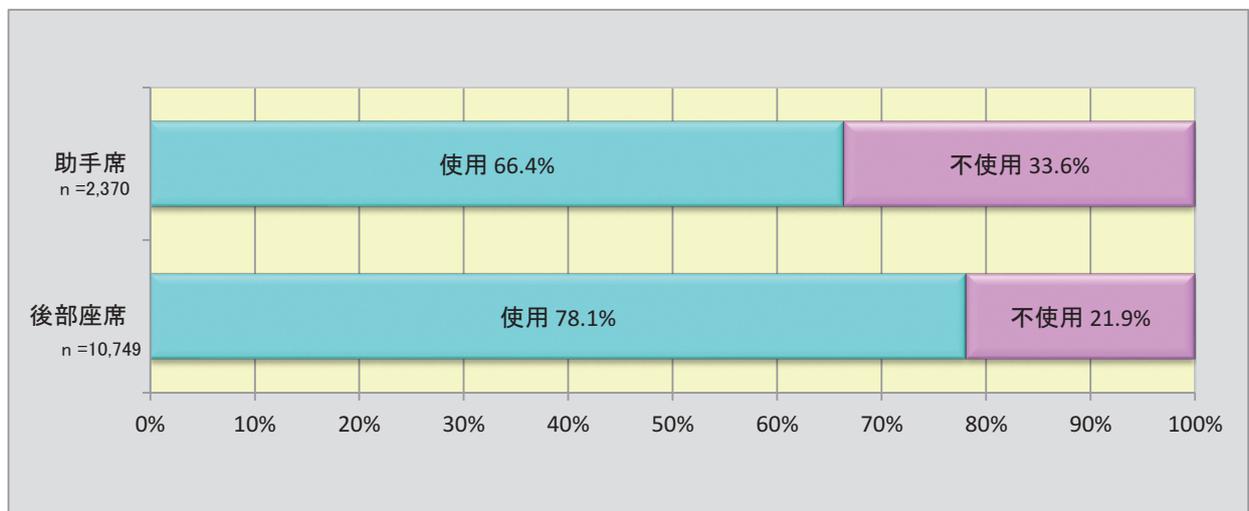
(1)チャイルドシート使用状況調査結果

使用・不使用状況の内訳(集計表)

	年齢層		チャイルドシート使用	チャイルドシート不使用				合計
				車両シートにそのまま着座	チャイルドシートにそのまま着座	大人用シートベルト着用	保護者の抱っこ	
全体	1歳未満	人数	1,640	20	23	1	98	1,782
		比率	92.0%	1.1%	1.3%	0.1%	5.5%	
	1歳～4歳	人数	6,887	815	526	281	240	8,749
		比率	78.7%	9.3%	6.0%	3.2%	2.7%	
	5歳	人数	1,437	561	147	431	12	2,588
		比率	55.5%	21.7%	5.7%	16.7%	0.5%	
	6歳未満全体	人数	9,964	1,396	696	713	350	13,119
		比率	76.0%	10.6%	5.3%	5.4%	2.7%	
助手席	1歳未満	人数	123	3	2	0	16	144
	1歳～4歳		1,020	144	76	130	47	1,417
	5歳		430	131	24	219	5	809
	6歳未満全体		1,573	278	102	349	68	2,370
後部座席	1歳未満	人数	1,517	17	21	1	82	1,638
	1歳～4歳		5,867	671	450	151	193	7,332
	5歳		1,007	430	123	212	7	1,779
	6歳未満全体		8,391	1,118	594	364	282	10,749

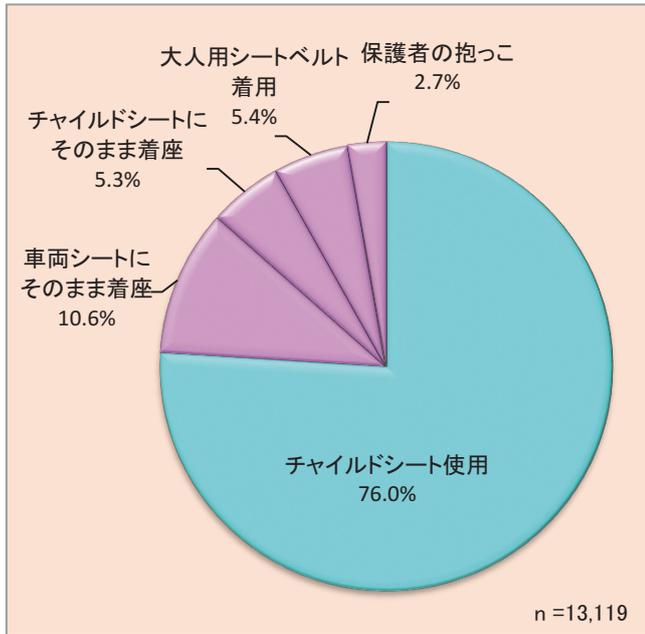
※構成比に関しては、各数値を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがある。

乗車位置と使用・不使用割合(6歳未満全体)

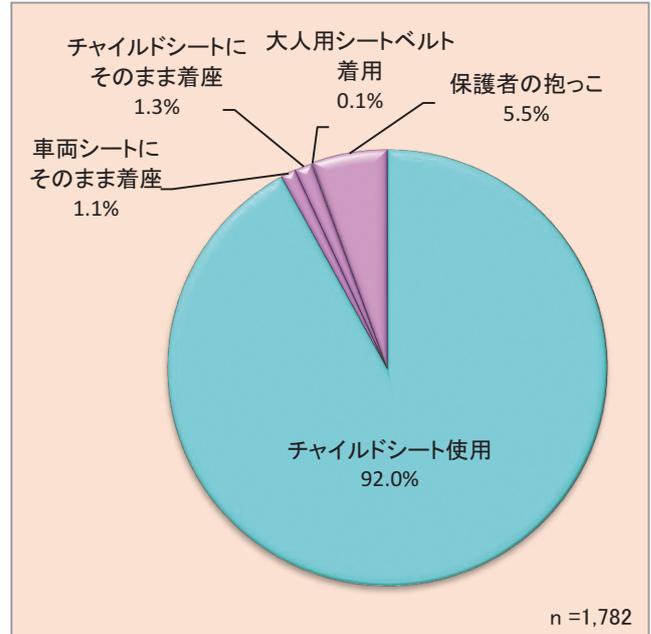


使用・不使用状況の内訳(円グラフ)

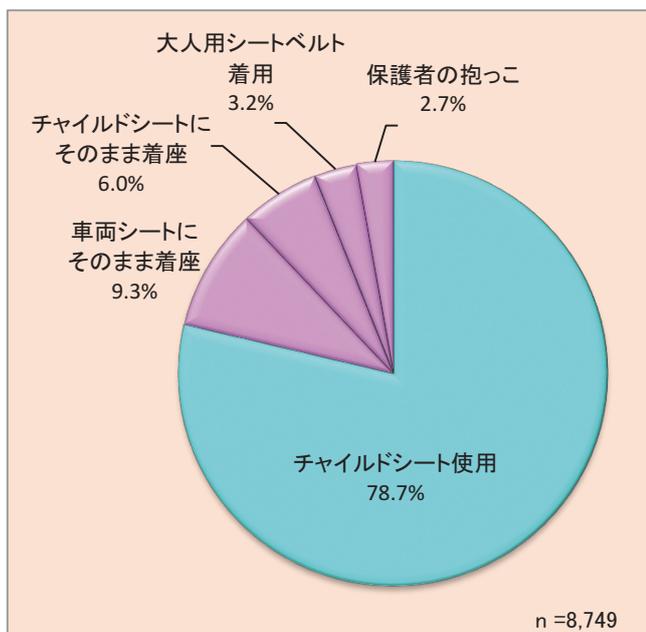
6歳未満全体



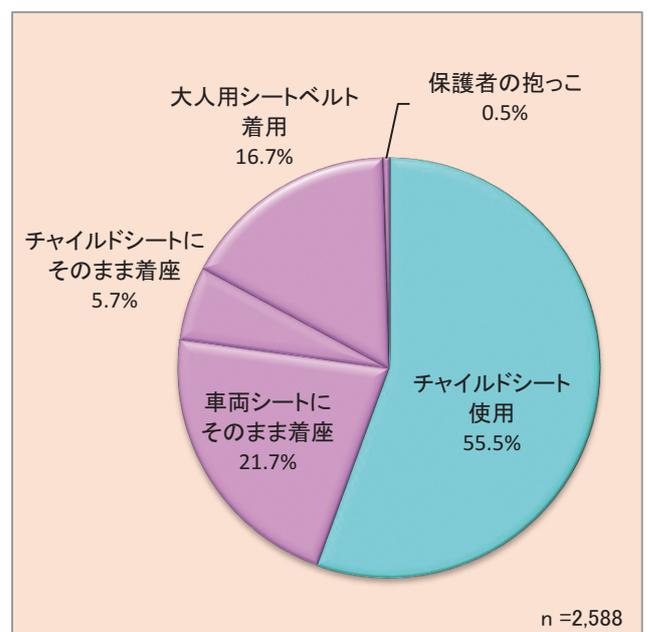
1歳未満



1歳～4歳

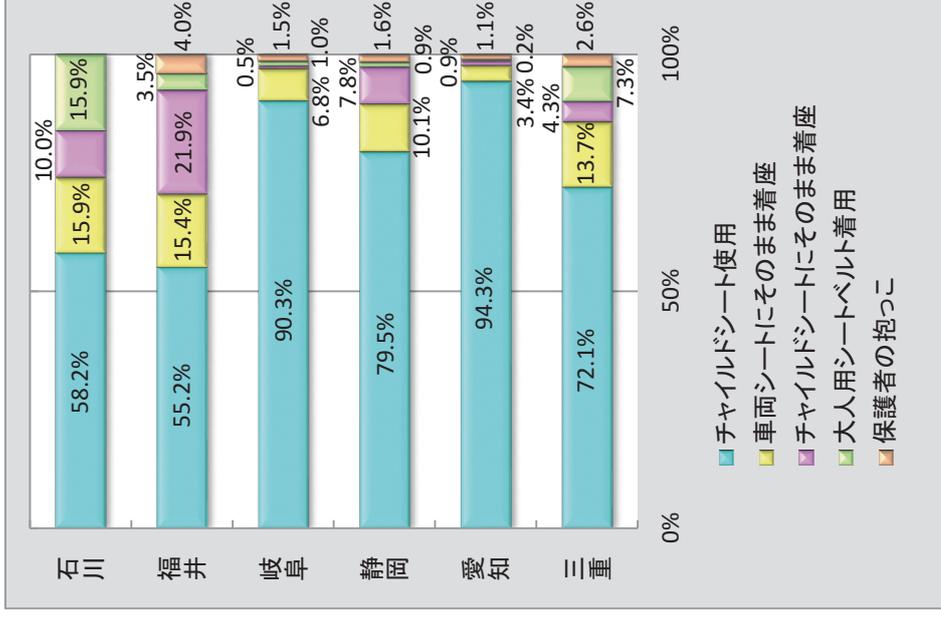
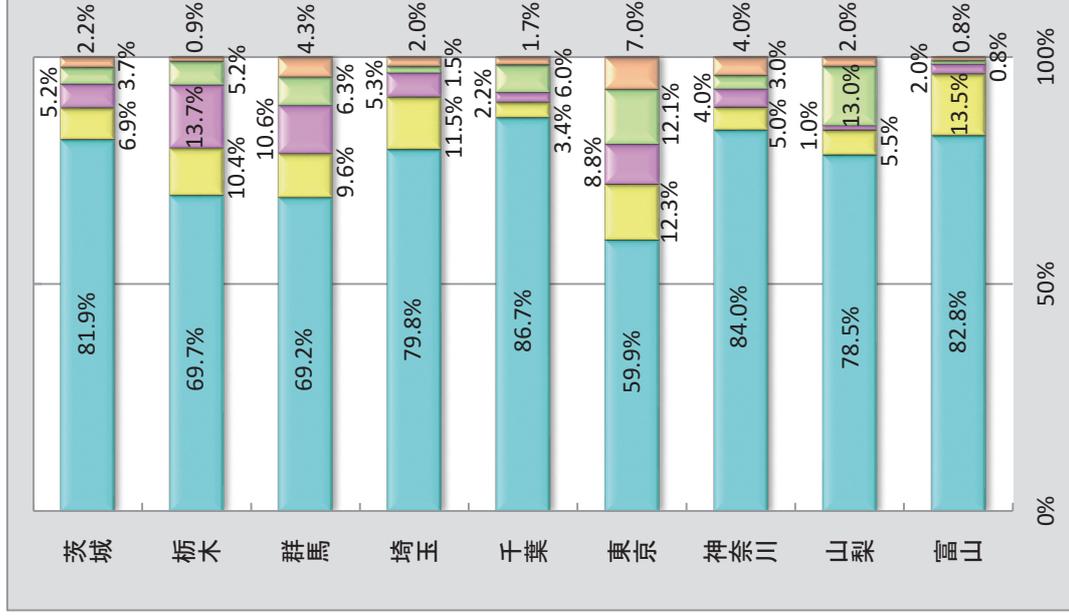
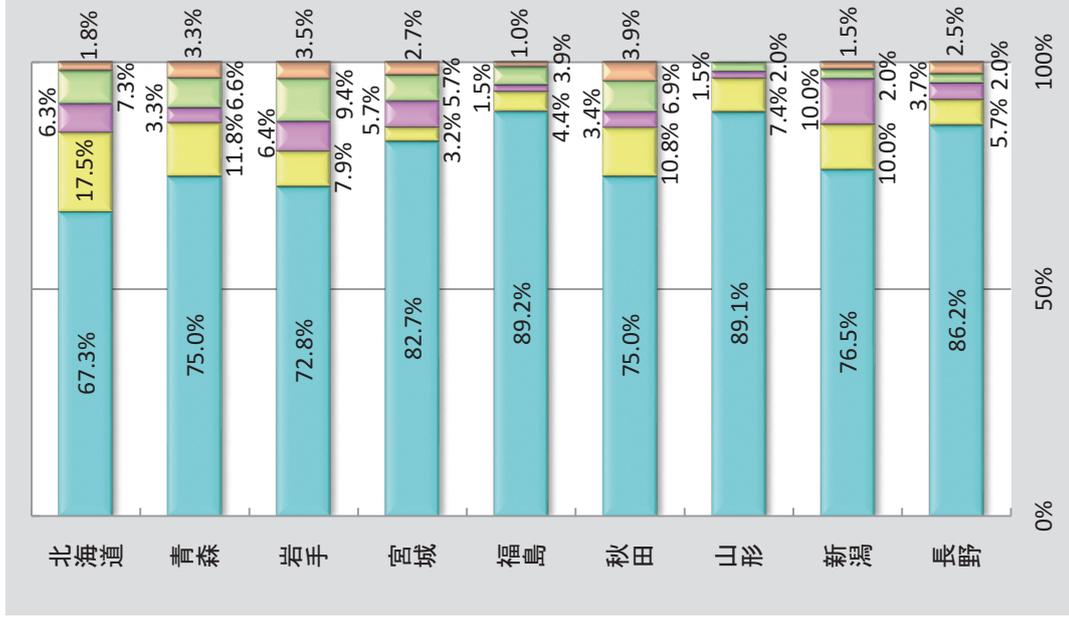


5歳

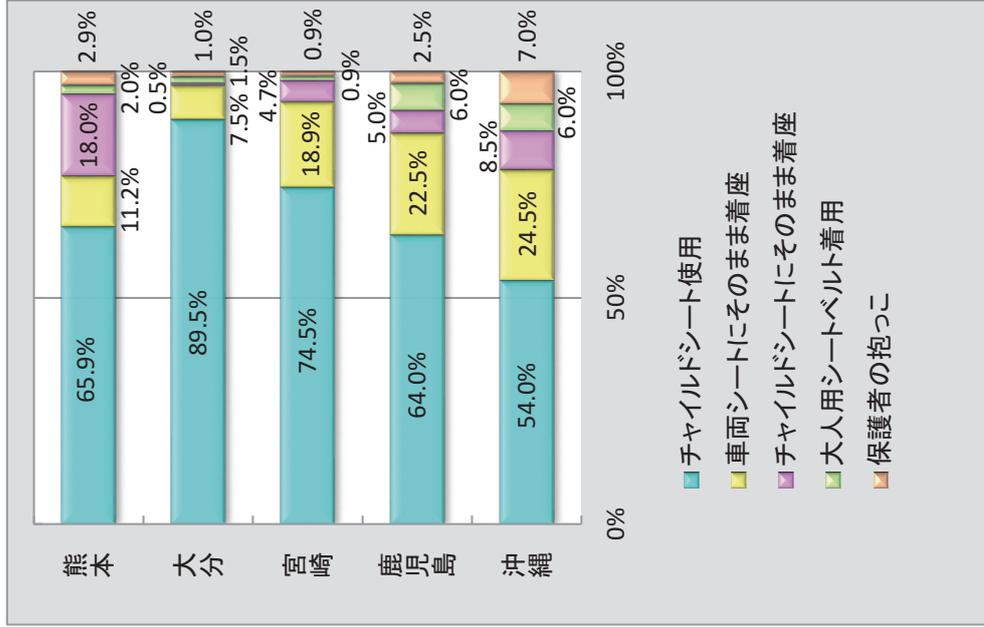
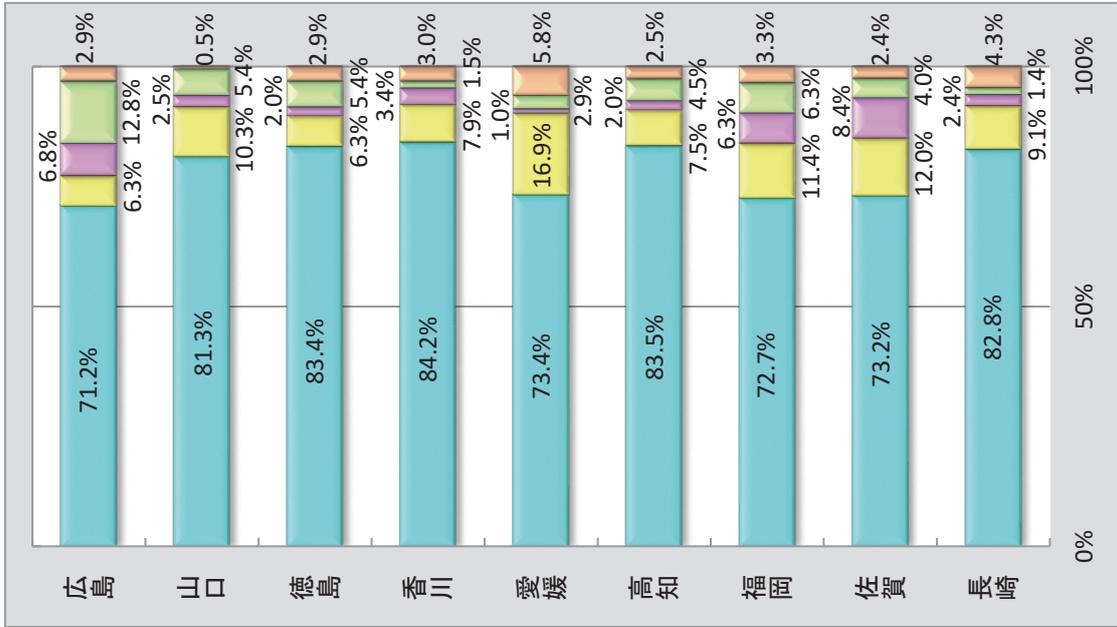
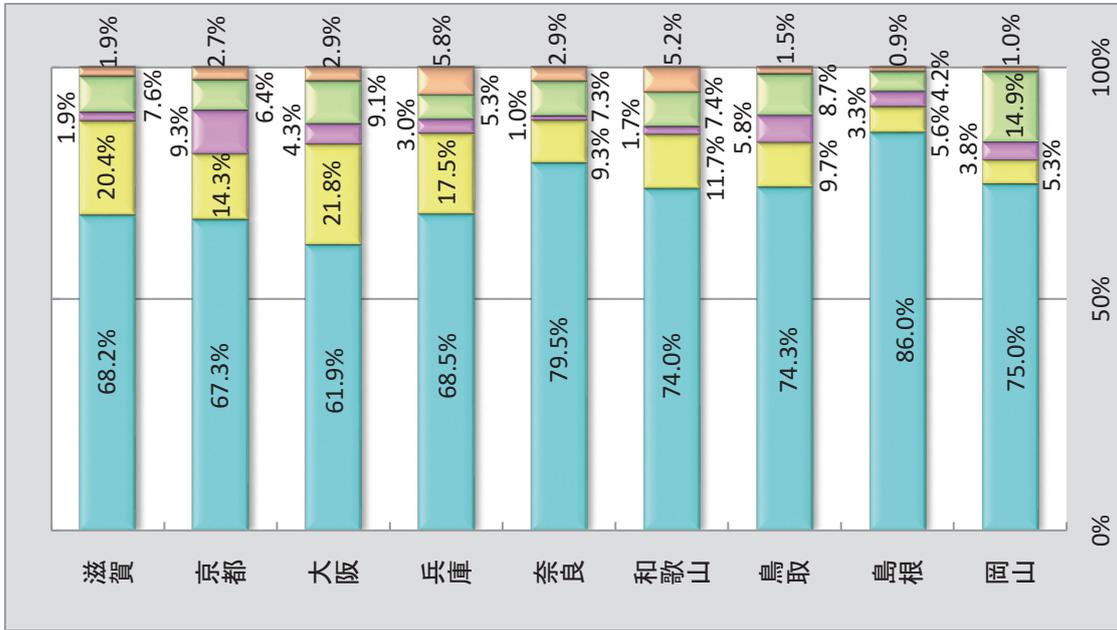


※グラフ中の構成比は、各数値を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがある。

都道府県別チャイルドシート使用状況調査結果（6歳未満全体）



※各都道府県ごとに年齢層別対象数等が異なっていることから比較対象に適するものではない。
 ※構成比に関しては、各数値を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがある。



※各都道府県ごとに年齢層別対象数等が異なっていることから比較対象に適するものではない。
 ※構成比に関しては、各数値を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがある。